

## 目標

我々、いわき経済同友会会員は、  
異業種交流活動を通して、  
持続可能な地域経済圏をつくり、  
夢と希望に満ちあふれた、  
元気な地域社会を目指します。

# SEA IWAKI

12月号／2019年12月1日発行

## 三つの目的

- 一つ 元気な会社をつくろう
- 二つ 元気な人財をつくろう
- 三つ 元気な経済圏をつくろう

11月18日（月）  
18:00～

## 11月創立記念公開例会

会場  
いわきワシントンホテル  
椿山荘

演題 いわきのポテンシャルを活かした交流人口増に向けて  
～20年後の「住む人・訪れる人」が共存するまちづくりのために～  
講師 JTB総研地域戦略部 河野まゆ子 様



演題 いわきのポテンシャルを活かした交流人口増に向けて  
～20年後の「住む人・訪れる人」が共存するまちづくりのために～  
演者 JTB 総研地域戦略部 河野まゆ子 様

1. 観光まちづくりに求められること
2. 国内観光の概況
3. 他地域の事例
4. いわきの観光まちづくりの推進に向けて

### 観光まちづくりに求められること

[観光地に求められる要素]

- 1 安心・安全であること
- 2 魅力の核となる資源が棄損されていないこと
- 3 地元の人でぎわっていること

- 4 来訪者が楽しめること・地域を発見できること
  - 5 消費が行われること
- 「仲間」～共通する課題を持つ仲間を見つけ協働する～  
まちづくり活動と行政がきちんと関わる  
[地域行政の役割]

- ・まちの将来ビジョンを示し続けること
- ・景観ガイドラインを定め、浸透させていくこと
- ・複数のまちづくり関連団体や個人を繋げる場をつくること
- ・活動を場や資金の提供等でサポートすること

## [まちづくり活動に従事する人の役割]

- ・行政のビジョンに反しない活動を行うこと
- ・まちに貢献することをたのしむこと
- ・主体的に、新たな経済活動や環境保全活動を推進していくこと
- ・若年層の活動を支え、後押しすること
- ・「よそ者」を排除しないこと

## 国内観光の概況

### [日本人の旅行行動の変化]

- ・1990年代半ば以降、一過性の消費から、日常生活の充実度向上のための消費へお金や時間がシフト。80年代までと対照的に余暇や消費全般が内向的に変化
- ・2010年代は、経済・社会的状況が厳しさを増す一方で、旅行回帰傾向に

### [国内旅行者数の推移と予測]

- ・旅行者総数は90年代半ばがピークでその後3割以上減少した。旅行以外に消費がシフトしたことが主因。2010年以降、再び漸増

### [近年の訪日外国人旅行者の増加がもたらす影響]

- ・福島県は日本人旅行者が減少、訪日客がそれをカバーできていない
- ・東北のなかでは、青森県のみ日本人の減少と訪日客増加がほぼ相殺されている状況。それ以外の東北各県はおおむね類似した状況にある

### 都道府県別・延べ宿泊者数（日本人）の伸び率への宿泊施設タイプ別寄与度分解（2017年／2012年）

- ・福島県の国内客伸び率に寄与しているのは簡易宿所とリゾートホテル
- ・他地域に多い「ビジネスホテル」の寄与度はほとんどない

### 都道府県別・延べ宿泊者数（外国人）の伸び率への宿泊施設タイプ別寄与度分解（2017年／2012年）

- ・福島県の訪日客伸び率に寄与している宿泊施設は旅館、ビジネスホテル、リゾートホテルなどバランス型
- ・簡易宿所の割合は極めて小さい

## いわきの観光まちづくりの推進に向けて

### [いわき観光の現状と課題]

内部要因	外部要因
<p><b>強み</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「石炭」という土地の歴史がある</li> <li>・「石炭ガス複合発電」の先進事例がある</li> <li>・海産物が豊富</li> <li>・工場が集積している</li> <li>・いわきFCのホームがある</li> <li>・集客の核となる観光施設がある（そこで行動が完結する弱みにもなる）</li> <li>・競走馬の療養施設や金澤翔子美術館など「ニッチ需要向け」の施設がある</li> </ul>	<p><b>機会</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・訪日客の地方分散</li> <li>・宿泊施設ニーズの多様化（「豪華・高品質」の解釈の多様化）</li> <li>・旅行目的の多様化</li> <li>・SNSを通じた消費者自身による発信力の拡大</li> <li>・2020オリンピックを通じた世界における日本の情報の発信機会増加</li> </ul>
<p><b>弱み</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・旧来型のハコモノ観光</li> <li>・温泉旅館街が衰退している</li> <li>・「象徴的な景色」が市場に伝わっていない</li> <li>・定番のお土産がない</li> <li>・ハリテージツーリズムの活動が停滞</li> <li>・街歩きできるエリアがない</li> </ul>	<p><b>脅威</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国内旅行市場の縮小</li> <li>・海水浴ニーズが大きく縮小している</li> <li>・新幹線沿いに立地していない</li> <li>・相次ぐ自然災害</li> </ul>

## [いわきの交流人口拡大に向けたアプローチ]

### 1. 観光による誘客

- ①他の競合地域にないストーリーをつくり、地域の観光ブランドイメージをつくる
- ②上記のストーリーとは合致しないが活用可能な資源個々の誘客戦略をつくる
- ③新しい関与者を集め、活動の裾野を広げていく  
★そのために必要なのは、「現在、誰がなにを期待して来ているのか」という地域の現在地を把握するためのマーケティング

### 2. 関係人口の拡大

- ①いわきFCのホームグラウンドを起点とした企業や大学・高校との関係づくり
- ②農業を核とした物産のファンづくり／ともに商品開発を行う地域を越境したチームづくりの促進  
★個々の施設や企業の関係人口を、どのように地域の関係人口に広げていくかを予め設計しておくことが重要

## [わたしが（勝手に）考えるいわきの観光ブランド] 日本を支える石炭のまち

- ～歴史的な流れだけではなく、SDGsの未来志向を踏まえて～
- ・長く採掘地であり、その時代の遺構や資料が見られること
  - ・工場夜景が見られること
  - ・積み下ろしをする港があること
  - ・石炭ガス化複合発電（IGCC）設備が世界に先駆けて稼働すること

上記のストーリーを繋げることができれば、他地域には真似のできないいわき唯一の価値になる

### そのため必要なこと

- ・石炭採掘の歴史を知れる施設見学を容易にすること
- ・歴史から未来まで一貫して学べる資料館などのビジターセンターを整備すること
- ・かたりべ、ガイドを増やすこと
- ・このストーリーに合致する土産品や物産を開発すること
- ・石炭ガス複合発電施設の見学プログラムを設けること

## [その他の観光資源の戦略づくり]

### 1. 宿泊施設の強化と新たなニーズの獲得

- ・温泉街における「宿の外で楽しめること」の開発
- ・温泉街を発着地にする工場夜景ツアーやバー巡りツアーナなどの実施
- ・簡易宿所や宿坊など、既存の博物館や資料館、神社・寺などで泊まれるプログラムの開発
- ・「農地で泊まれる」キャンプではない農泊事業の開発

### 2. 地域におけるインバウンド戦略の構築

- ・地域におけるインバウンドターゲットの絞り込みと誘致活動
- ・発電所など、新技術を学ぶための視察プログラムの商品化と販売

### 3. 地域の食の強化

- ・地域を代表する食メニューの開発と、複数の施設での提供（レストランメニューとフィンガーフード（ワンコインメニュー）の両方あるとよい）

4. いわきFCを起点としたスポーツと健康・グローバルを学ぶプログラムの研ぎ澄まし  
・合宿で体験し、学べるコンテンツと地域で遊べる・学べるコンテンツの融合

#### [観光まちづくりと広報・発信]

##### 1. 対外的プロモーション

- ①誰でもできること
  - ・地域の風景、魅力をSNSで発信しまくること
  - ・地域の宿泊施設や飲食店の口コミを積極的に記載してあげること
- ②行政が主導となって仕掛け、地域の方々が協力するとよいこと
  - ・TwitterやInstagramのハッシュタグキャンペーン（テーマを決めて写真を投稿してもらい、集まった写真を宣材として活用）
  - ・地域の観光キャッチコピーを域内外の様々なところで掲げること
- ③観光に関わる施設が行うこと
  - ・観光口コミサイト、Tripadvisorへのコンテンツ掲載

##### 2. インナープロモーション

- ①教育・学習
  - ・小学生から高校生にかけて、地域を学ぶ高品質な教育カリキュラムを展開すること
  - ・高校生や大学生を、新規土産品や観光コンテンツの開発に携わらせるこ
- ②まちの产品購入
  - ・地域の产品を積極的に購入すること

#### 今後のいわきの観光まちづくりはどうあるべきか

物見遊山観光はもう古い。地域の歴史や未来を、自分の生活と繋げて感じができるか、自分だけの特別な感傷や価値を持って帰れるかが重要。  
地域の魅力は、自然と人間活動との折り合いにある。  
伝えたいのは「土地の物語性」

#### 地域を見せるのは、何のため？

- ・観光資源化して少しでも経済効果を生むため
- ・それが価値あるもの、と理解してもらい、地域への関係性を生み出すため
- ・その土地や歴史の証左としてシビックプライドやナショナルプライドを醸成するため

#### 地域資源の価値＝

- ①(その時代時代の)「地域の生活」の必然性と唯一性
- ②そこに生きる人にとっての心のよりどころ、誇り、親しみ

個々の地域資源の楽しさ・面白さ・おいしさを伝えることは重要。これにとどまらず、それらの資源を「地域を理解するインデックス」として編集、伝達することが重要。石炭や工場などが好きな「マニア層」と、それらを“ついで”に見る「ライト層」それぞれにとって伝わりやすい手法、ことばで伝達

#### ニーズを満たしながら 価値の本質を伝える編集

河野 まゆ子

JTB総研地域戦略部 主席研究員

##### 専門分野

地域活性化 観光危機管理 文化財・世界遺産 精緻なデータに基づき、地域資源を活用した観光振興に係る戦略づくりを支援する地域密着型コンサルタント。

##### 経歴

2000年、東京大学文学部美術史学専攻卒、ユーラシア旅行社に入社。

イスラム地域のパッケージ商品の企画・販売、Web管理を担当。同社退社後、筑波大学大学院修士課程芸術研究科世界遺産専攻に入学。奈良県・和歌山県における文化的観光施策の現状を研究、2006年過程修了。同年4月から現職。



例会・懇親会写真



# 11月グループ会報告

## 第1グループ会

■日 時 12月5日(木曜日)  
 ■場 所 建設会館 会議室

### 経営者研修会

講 師 みずほ銀行支店長 小林 哲郎 氏  
 テーマ 税金を知って賢い資産形成  
 イデコ（個人型確定拠出年金）やNISA（税制優遇制度）などについての解説

## 第2グループ会

■日 時 11月26日(火曜日)  
 ■場 所 建設会館

### 令和元年度第5回第2グループ会

・いわき市取り組んでいる「スポーツ推進計画（2011公布）」から、新たに令和3年度公布に向けて国が定める、スポーツ基本計画が出されたことから、いわき市もこれに向けて「（仮称）新・いわき市スポーツ推進基本計画」の策定を始めるにあたり、文化スポーツ室・本田係長、鈴木様にお越し頂き、今後の方向性等の話を頂いた。

スポーツ推進計画は、文部科学省の管轄ですが、スポーツツーリズムは、国土交通省（観光庁）とほぼ、内容がリンクすることから、2グループのテーマに沿っている事で今後のいわき市の教育・健康・人口減少問題・観光と交流人口と言ったことと合致したことから、今後の流れを説明頂いた。

懇親会では、ざくばらんな話と共に、経済団体の役割等の話と共に、参加者の熱い思いで、締めくくりました。

## 第3グループ会

■日 時 11月5日(火曜日)  
 ■場 所 宍戸ヒルズカントリークラブ

### 「名門ゴルフ場でゴルフコンペ」

今回は日本ゴルフ選手権が行われている、宍戸ヒルズカントリークラブに行って参りました。天気も良くコンディションは最高でしたが、中島常夫プロ監修によるコースの改修があり、とても難しくなっていました。

シングルハンデの青木仁三さんでさえ89のスコアでしたので参加者はとても苦労しました。

また、リベンジしたいものです。

## ◆誕生日プレゼント

ポインセチア・シクラメンが贈られました



誕生日は、写真左から鈴木淳夫さん（11月29日生）、山崎建見さん（11月10日生）、松崎智弘さん（11月3日生）、安島代表幹事、小野賢司さん（11月2日生）、軽部良一さん（11月18日）

## 1月賀詞交歓会

会 場 正月荘 時 間 18：45～ 例 会

## 1月14日(火)

会 費 5,000円  
 19：00～ 賀詞交歓会

### FMいわき「いわき経済同友会だより」

#### 【1月予定放送】

- ・1月6日 副代表幹事 小沼 郁瓦 様
- ・1月13日 常任幹事 寺主 君男 様

◇毎週月曜日17時45分からです。（約5分間）

- ・1月20日 会員増強委員会 田村慎太郎 様

- ・1月27日 例会委員会 竹下 康照 様

※インターネットでも、FMいわきがお聴きできますので、17時45分になったら、下記のところをクリックして下さい。  
<http://www.simulradio.jp/>

### いわき経済同友会 ご入会のお薦め

### いわき市内の企業経営者ならどなたでも入会できます

- 会の趣旨に賛同される方は会員の推薦と所定の手続きによりどなたでも参加できます。  
 お問い合わせは下記へどうぞ。ご入会を心からお待ちしております。

事務局 〒970-8026 いわき市平字童子町4番地-18 いわき建設会館 4F  
 TEL 0246-23-1200 FAX 0246-23-1211  
<http://www.seaiwaki.jp>  
 E-mail:doyukai@triton.ocn.ne.jp

発 行 いわき経済同友会 安島 浩代表幹事  
 編 集 情報委員会 委員長 坂本和久  
 副委員長／鈴木俊哉・松尾幸治・松崎貴弘  
 四ッ倉隆裕・中山壮士郎